

トップガンジャーナル

Journal of TopGun



令和3年4月20日 第72号

活動レポート

小学生算数コンテスト「MATHやらまいか」



2020年12月9日(土)トップガン教育システム協議会主催「第8回MATHやらまいか 決勝大会」を浜松市中区にある浜松科学館みらい～らホールにて開催しました。大会は児童に算数の面白さを伝えるため2013年に創設。インターネットで参加できる今年の予選には604人が参加し、予選を通過した小学生30名が、算数の計算力や思考力を競う「MATH(マス)やらまいか 決勝大会」に挑戦しました。

「MATHやらまいか」の目的は、前述のように小学生の算数の計算力や思考力を競うイベントで、その目的は算数の本当の面白さを伝えるきっかけづくりと算数の得意な子、才能を持つ子を発掘し、その才能を伸ばしてあげることです。小学校卒業後、大学教員が直接指導するジュニア数学オリンピック練習会や算数・数学自由研究(通称マスコン)科学の課外講座へも案内を

しています。

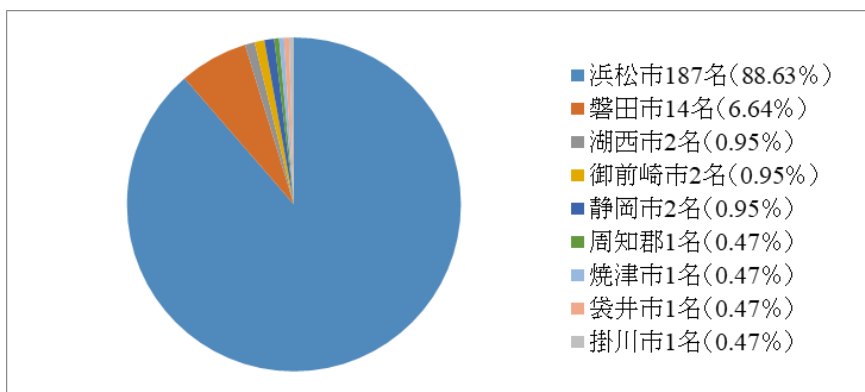
<配布チラシはWeb上で閲覧可>

「MATHやらまいか」への参加の方法は、予選はインターネットでの参加となります。小学生を対象としていますが、誰でも参加可能です。Web上で「マスやらまいか」と検索するか、

URL : <https://math-yaramaika.com/>

にアクセスして問題を解いていきます。小学生だけでなく大人の皆さんも毎年、アクセスして問題に挑戦しています。

本年度の予選は、2020年10月1日(木)～10月31日(土)にかけて、インターネット上で行われました。この予選期間中、何度でも挑戦できます。今回は、浜松市内の小学生478名、小学生38名、大人を含む小学生以外88名、合計604名がインターネットで参加しました。



< 第8回に参加した児童の市別割合 >

<決勝大会の要項>

- 日 時 : 2020年12月19日(土)
- 会 場 : 浜松科学館みらい〜らホール
- 人 数 : 30名(保護者同伴)
- 対 象 : 予選ランキング上位者のうち、当日参加可能な小学生。
ただし、浜松市外の小学生については、予選ランキング
30位以内、かつ、最大10名までを対象とします。
- 参加料 : 無料
- 主 催 : トップガン教育システム協議会
(協議会構成員: 静岡県・浜松市・浜松商工会議所・浜松市教育委員
会・株式会社乃村工藝社株式会社SBSプロモーション共同事業体・公益財
団法人浜松地域イノベーション推進機構・浜松医科大学・光産業創成大学院
大学・静岡大学・浜松いわた信用金庫、ヤマハ株式会社)
- 共 催 : 浜松市、静岡大学、浜松医科大学、浜松科学館みらい〜ら
- 後 援 : 浜松市教育委員会、湖西市教育委員会、磐田市教育委員会、袋井市教育
委員会、森町教育委員会、掛川市教育委員会、菊川市教育委員会、御前崎市
教育委員会、静岡新聞社・静岡放送、中日新聞東海本社
- 協 賛 : 株式会社CAIメディア、浜松いわた信用金庫、須山建設株式会社、
丸八不動産株式会社、株式会社ソミック石川、株式会社第一印刷、株式会社丸八
株式会社ヤマザキ 浜松さくらライオンズクラブ、株式会社アーシス、
日研フード株式会社、やまと興業株式会社

決勝では、タブレット端末で計算ゲーム「MATH 拾わんかを作らんか」を実施しました。予選問題「MATH 拾わんか」の問題(一筆書き)になるように、[step1]数字のついた石を盤面に置き[step2]計算式に合うように盤面の石を拾っていく問題が出題されました。制限時間は1時間で、合計得点を競いました。

Math拾わんかをつくらんか

予選問題「Math拾わんか」の問題(一筆書き)になるように(1)数字のついた石をおき、(2)計算式にあうように石を拾うのじゃ! 時間は60分じゃ!

・問題の数は全部で15じゃ! 得点の高い問題が難しいとはかぎらないので、どの問題からはじめてもよいのじゃ!(画面上の数字をおすと問題を移れるのじゃ)

【得点】・問題を正解するごとに得点が増えるのじゃ!
・時間内に全問正解した場合は残り時間が得点にたされるのじゃ!(1秒1点)
・一番多く得点をとった者が優勝じゃ! 同点の場合は、予選の点が高い方の勝ちじゃ!

ルール説明

完成済	今	まだ
1	2	3
70点	70点	96点
問題ごとの点数		

画面の説明

問題で用意された石・6コのうち3コを一筆書きで拾えるようにおく

【1石のおき方】

- おきたい石をタップ→おきたい場所をタップ(石をおき直す場合は、その石をもう一度タップ)
- すべての石をおいたら、2の「拾う」矢印をタップ

【2石の拾い方】

- 拾いたい石をタップ→順番に石箱に入る(石を箱から元に戻す場合は、その石箱をタップ)
- (石のおき方からやり直す場合は1の「おく」矢印をタップ)

現在の得点 **70** | 残り時間 **57:07**

黄色い石はおけない拾う時は通れる

赤い石はおけない拾う時も通れない

拾えない場所にある石はタップしても動かない

すべての石を拾ったらタップ **かんせい**
正解ならば次の問題へうつる

□の数字のたし算が計算式(=7)にあうように拾う

<決勝大会のようす>

決勝戦は、浜松医大山本理事・静岡大学小南先生・静岡県議会山田議長チームも挑戦し、大会を盛り上げました。

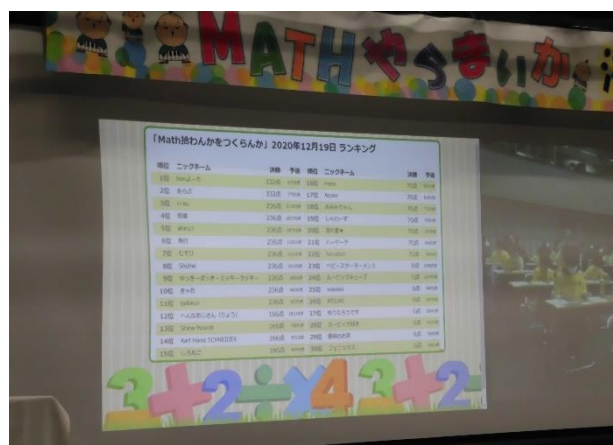
会場では、写真のようにリアルタイムで全員の得点と順位が映し出され、後ろで見守る保護者の皆さんもドキドキしながらの応援です。



決勝問題に取り組む競技者



決勝問題を解く 静岡大学小南先生
浜松医大山本理事・静岡県議会山田議長 チーム



リアルタイムで映し出される得点と順位



トップガン教育システム協議会 木村雅和会長と
入賞者の皆さんとの記念撮影

- 優勝 松本りくさん (中央)
(静岡大学教育学部附属浜松小学校 6年)
- 第2位 木場蒼士さん (左)
(浜松市立和田小学校 6年)
- 第3位 中村幸太郎さん (右)
(静岡大学教育学部附属浜松小学校 4年)

総評

今日はお疲れ様でした。今日の問題は難しかったですか。楽しかったですか。決勝大会を楽しめたのならよかったです。この決勝大会に参加した30名の皆さん。予選には600人以上の方が参加しました。多分皆さんは毎日どうやって解いたらいい点数取れるかな。どうやったらもっと早く解けるかな。そうやって考えながら何回も何回も予選に挑戦したのだと思います。そして毎日努力を重ねてこの場に来たというのはすごいことだと思います。ですから、皆さん自信を持ってください。そしてもっともっと算数が好きになってください。そして、1位から3位の中に入ったお友達。初めて問題を見て、この緊張する場で集中しながらやって本当に入賞おめでとうございます。

決勝大会のような問題は、急いで頭を回転させて解いていくと同時に、どのように考えたら早く答えにたどり着けるかなと、じっくりと考えることも必要になります。じっくり考えて早く解く。頭の中でこの両方をやっていくことが算数の楽しいところですね。皆さんはそういうことが得意だと思いますので、これからもどんどんチャレンジして算数を好きになってください。算数というのは非常に役に立ちます。例えば皆さんが咳をすると、空気がパッと飛んで行きますね。どこにどのくらいの距離飛びますよ。というのを計算するのも算数ですね。将来いろんなことに役に立つと思います。これからどんどん勉強して、ますます頑張ってください。今日は本当にお疲れ様でした。



(光産業創成大学院大学 教授 石井勝弘先生)

閉会の言葉

皆さん今日はお疲れ様でした。一生懸命解いてまだ手の感覚が抜けてないかもしれませんが、第8回 MATH やらまいか閉会にあたりまして一言お話しさせていただきます。みんなの中でこの決勝大会に来てよかったなと思っている人は手を上げてください。精一杯頑張ったなという人は手を上げてください。もうちょっと頑張れたなと思う人は手挙げてください。ありがとうございます。みんな目標が高いと思います。これはとっても大事なことです。次はこうしよう。こうなりたい。そういう気持ちはどんどん自分を高めていきますからその気持ちを忘れないでいただきたい。ここに来られているお父さんお母さん。子どもたちを見てああ頑張ってるんだなと思われたと思います。私は大学で医師の卵や看護師の卵をたくさんみていますが世の中に出て何が一番大事かということ、自分が楽しいと思うこと。好きだなと思うこと。やりたいと思うこと。それを精一杯できるかどうかということです。それによってこの人の能力が分かれると思います。仕事はいろんなことがありますし、嫌なこともあります。しかし、嫌なことを精一杯できるというのは何より楽しいことを精一杯楽しむ という能力があるからなのです。お父さんお母さんをお願いしたい

のは子どもたちが好きだなと思うこと。楽しいなと思うこと。これをやりたいと言っていることをぜひやらせてあげてください。自分がやりたいことができるという状態が自分の将来につながっていくと、考えていただけたらと思います。きっとやりたいことは一個ではありません。しかし、その中で選んでいくというプロセスも大事ですので、やりたいことを精一杯やって何か自分を探せるような環境を与えてあげるといいかなと思います。そうすることで、どんどん可能性が広がっていくと思います。本日はお疲れ様でした。



(浜松医科大学 理事・副学長 山本清二先生)

優勝した松本さん 感想

MATH やらまいかに初めて参加したのは、4年生の時でした。予選の問題を初めて見た時はとても難しいと思いましたが、その難問が解けた時の喜びが大きく、時間を忘れ夢中に解いたのを思い出します。決勝の時は更に難問を制限時間内に解かなければならないというプレッシャーで実力は発揮できず9位でした。

5年生の時は、魔法陣のモビール、天秤の重りの重さを計算するという算数と理科が合わさったような問題で、自分の得意分野だったので、2位という結果でした。そして今年が小学生最後の大会でした。予選の時から、わからない問題に時間をかけてとことん理解をして取り組んだ事で予選も1位通過でした。決勝では碁石拾いの問題から与えられた条件の下で自ら作って回答する問題でした。どこに数字を当てはめると完成するのかを考えながら夢中に問題を解きました。10問目の問題がとても難しかったので後回ししました。それ以外の問題はどんどん解ける感覚がありとても気持ちよかったです。残り10分の時に後回しした10問目の問題が解けた時にはとても達成感がありました。やっぱり僕は算数が大好きだと思った瞬間でした。算数が大好きな子達が集まり、みんなで競い合ったのもいい思い出です。小学生最後のMATH やらまいかで予選も決勝も1位の「完全制覇」できたのは、僕のいい思い出になりました。

静岡大学教育学部附属浜松小学校6年 松本りく